

令和 5 年 5 月 1 7 日

長野県知事 様

令和 5 年度長野県産業廃棄物 3 R 実践計画書

下記のとおり、産業廃棄物 3 R 実践計画書を提出します。

協定期間	令和 4 年度から令和 7 年度	
会社名	株式会社エプソンロジスティクス	
住所	〒390-1243 長野県松本市神林 1 5 6 3 番地	
代表者名	代表取締役 西牧 理	
区分	中間処理	最終処分
許可番号	1 3 6 2 0 0 5 6 2 7 0	
処理施設 所在地 (複数ある場合はそれぞれ記入)	施設名	所在地
	神林事業所	長野県松本市神林 1 5 6 3
担当部署	環境事業推進部 環境リサイクルグループ	
担当者名	三浦 正男	
連絡先	TEL	0 2 6 3 - 5 8 - 6 2 4 3
	FAX	0 2 6 3 - 5 8 - 6 7 5 8
	電子メールアドレス	Miura.Masao@exc.epson.co.jp
ホームページアドレス	https://www.epson.jp/SR/environment/	

1 産業廃棄物 3 R 実践方針

株式会社エプソンロジスティクスは親会社であるセイコーエプソン株式会社の「長期ビジョンEpson25Renewed」が目指す、持続可能でこころ豊かな社会の実現に向け、環境への取り組みを当社の事業活動の柱として取り組んでまいります。なかでも「資源循環」と「環境技術開発」への貢献に注力してまいります。

2 取組み目標

(1) リサイクル率目標値（中間処理の場合） (%)

廃棄物の種類	当年度目標値	過年度実績値		
	令和5年度 目標値	令和4年度 実績値	令和3年度 実績値	令和2年度 実績値
廃プラスチック類	100	100	100	100
金属くず	100	100	100	100
ガラス・コンクリート くず及び陶器くず	100	100	100	100
全体	100	100	100	100

(2) 再生利用量目標値（中間処理の場合） (t)

廃棄物の種類	当年度目標値	過年度実績値		
	令和5年度 目標値	令和4年度 実績値	令和3年度 実績値	令和2年度 実績値
廃プラスチック類	55.0	55.4	70.4	74.7
金属くず	2.0	2	1.7	2.9
ガラス・コンクリート くず及び陶器くず	3.6	3.6	3.3	3.0
全体	60.6	61	75.4	80.6

(3) 最終処分量目標値 (t)

廃棄物の種類	当年度目標値	過年度実績値		
	令和5年度 目標値	令和4年度 実績値	令和3年度 実績値	令和2年度 実績値
廃プラスチック類	0	0	0	0
金属くず	0	0	0	0
ガラス・コンクリート くず及び陶器くず	0	0	0	0
全体	0	0	0	0

3 産業廃棄物管理体制

1. 全体的な管理は株式会社エプソンロジスティクス代表取締役：西牧 理を統括責任者とし適正管理を行う。
2. 処理施設の維持管理については、施設技術管理士有資格者：武村 隆を中心に適正な施設運転及び保全を行う。
3. 統括管理者と廃棄物管理責任者は定例的に処理計画・実績について情報の共有化を図りトラブルを事前に防止するよう努める。

*必要に応じ管理体制組織図等を添付する。

4 産業廃棄物の種類、処理量、処理方法、排出ガス、排出水等に関する情報公開

- ・エプソングループの中間処理会社として、例年通り、中学生向け体験学習/各種取材を受け入れる計画。

5 産業廃棄物処理施設の地域への公開、説明

施設の名称	公開計画の有無	公開計画の概要又は公開計画無しの理由
神林事業所	有 <input checked="" type="radio"/> 無	・取材等は都度受入を実施している
	有・無	

6 中間処理・最終処分を委託する場合の処理業者（施設）現地確認計画（中間処理業のみ）

区分	廃棄物の種類	現地確認計画
中間処理場	廃プラスチック類	<ul style="list-style-type: none"> ・当社基準に従い定期評価年間計画を作成し、スケジュールに沿ってチェックリスト等を活用し、処分現地確認のうえ定期評価を実施する。（2年～3年に1回を基本とする） ・新規業者については現地確認のうえ選定評価を行い、活用の可否を判断する。
	金属くず	
	ガラスくず・コンクリートくず及び陶器くず	
最終処分場	—	該当無し。

7 従業員教育（研修）計画

項目	教育（研修）計画内容
活動目標示達	・年度初めの方針大会にて前年度実績報告と当年度の活動目標
環境基礎教育	・エプソングループの人材育成支援システム（Web教育）での環境基礎教育を年1回実施
環境自覚教育	・職場の環境活動の一環として実施しており、廃掃法などを中心とした遵法活動や活動負荷低減活動、地域貢献活動についての共有化を図る。（教育を年1回実施）

8 排出事業者への協力要請

1. エプソングループの主要排出部門に対し、再資源の向上に向けた分別の徹底を要請する。
2. 排出事業部門からの工場見学の受入。

9 リサイクル技術向上に向けた取組み

1. 破砕・リサイクル施設技術管理士取得者を担当に配置している。
2. 各種講習会や展示会等に参加、及びインターネット情報検索で最新の処理技術の情報収集に努める。
3. EPSON25Renewedの環境への取組に関し、子会社としてセイコーエプソンの資源循環・環境技術開発の推進を共同で実施している。

10 不法投棄・不適正処理を発見した場合における協力体制

- ・不法投棄・不適正処理と思われる廃棄物を見かけた場合には、必ず職制に連絡するように所属員に徹底するとともに、直ちに関係機関に連絡し、情報提供や原因の究明等に協力する。

11 自社処理廃棄物の管理方法

1. 自社から出る廃棄物については、専用の保管場所を設け保管する。
2. 1次排出事業者として、電子マニフェストでの処理を行う。

1.2 その他協定の目的達成のため、独自に取り組む事項

代替素材への転換※1、環境認証制度※2の取得、電子マニフェスト（公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター）の導入等を含む。

1. ISO 14001認証継続（内部監査の実施、昨年度外部更新審査実施）
2. 施設管理・作業環境管理
 - ・騒音測定を第三者機関に依頼し、作業環境管理に役立てる 2回/年
3. 環境の維持
 - ・神林事業所地域クリーンアップ活動への参加 2回/年
 - ・屋外倉庫周辺（トラックヤード）の漏洩・ゴミ飛散等の日常点検・清掃の実施 1回/日
4. 緊急時対応訓練の実施
 - ・著しい環境側面としている事項を想定した、緊急時対応訓練の実施（インク漏洩等） 1回/年
5. 自社から出る産廃について、排出事業者としての登録を行い、電子マニフェストでの運用を実施。

※1 化石燃料由来プラスチック製品等からバイオマスプラスチックなど環境負荷の低い素材や製品へ転換していくこと

※2 環境 ISO 14001、エコアクション 21 等